

神戸市立博物館 2階 ギャラリー

平成 28年 5月 10日(火) ～ 6月 12日(日)

# 画家が見た風景

— 絵画コレクション展 —



4.《雨の新聞地》神原 浩

ごあいさつ

当館のコレクションの中から、風景を描いた絵画作品をご紹介します。

交通手段が発達した今日、世界各地の名所や見知らぬ風景を求めて旅することは、それほど難しいことではなくなりました。訪れた土地の、ある美しい一瞬をカメラなどで記録することも、もはや特別な技術が必要としません。撮影された写真は、第三者が見ても興味深いものに思われ、撮影した人にとっては、その時に感じていた光や音、大気の香り、そばにいた人たちなど、個人的な記憶をたどる特別な手がかりともなります。

では、人の眼と手を介してつくられた風景画はどうでしょうか。写真に比較すると、風景画の制作にはより長い時間を必要とします。そして、よく知られているように、画家たちは、目の前の風景を取材するものの、それを忠実に写すのではなく、モチーフの移動、消去、追加を行いつつ、現実ではない、フィクションの世界を創りだしてゆきます。そこには、表現への衝動にかられる動機となった何らかの感情に基づく画家の思いが込められています。画家たちは言葉ではなく作品でもって、彼らの思いを私たちに伝えますが、その意図が“見える”かどうかは、鑑賞する私たち次第であるといえましょう。

古来より日本人は、移ろう自然の美しさを鋭敏に感じ取り、和歌や詩、工芸品、絵画、舞、その他数多くの芸術として表現してきました。四季それぞれの草木や動物のようす、太陽や月の光、風や雨などの自然現象とそれらの変化を詳細に観察し、名称を与えたり、時には畏れをいだいたりもしながら自然を愛しんできた民族でした。

ここで紹介する絵画作品は、日本人の画家によるものが大部分です。画家たちは、私たちに何を伝えるために、風景を作品の中に永遠に留めたのでしょうか。外国の画家の作品との表現の違いも比較していただきながら、作品と画家との対話をお楽しみいただければと考えます。

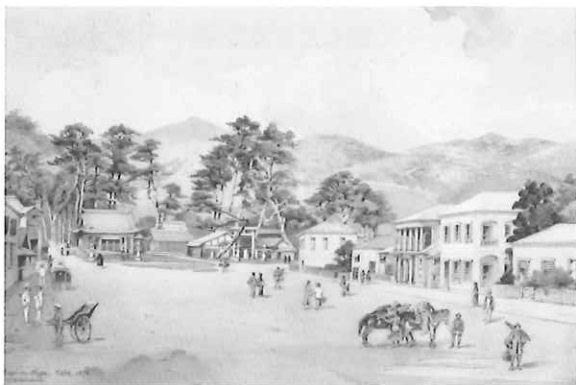
平成 28年 5月

神戸市立博物館

〒650-0034 神戸市中央区京町 24 Tel (078) 391-0035  
Homepage <http://www.city.kobe.lg.jp/museum/>  
Facebook <https://www.facebook.com/kobemuseum>

出品目録

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦×横 cm)	所蔵
1 チャールズ・パートン・バーナード	三宮神社付近風景	1878(明治 11 年)	水彩、コンテ・紙	26.8×39.5	当館蔵
2 前田吉彦	湊川新橋風景	c.1880-97(明治 13-30 年頃)	油彩・絹	36.2×103.5	当館蔵
3 二世 五姓田芳柳(画)	嬌花濡雨図	1888(明治 21 年)	石版・紙	35.0×46.5	当館蔵
4 神原 浩	雨の新開地	制作年不詳	エッチング・紙	18.9×10.7	当館蔵
5 大森啓助	閑日	1929(昭和 4 年)	油彩・キャンバス	45.2×53.0	当館蔵
6 シヤルル=フェルディナン・セラマノ	森外れでの休息	制作年不詳	油彩・キャンバス	73.0×60.0	神戸市蔵
7 元川嘉津美	山峡の春	1952(昭和 27 年)	油彩・キャンバス	130.4×130.4	当館蔵
8 川端謹次	潮風	1955(昭和 30 年)	油彩・キャンバス	145.5×112.3	神戸市蔵
9 池田遙邨	雪の神戸港	1947(昭和 22 年)	絹本著色	176.0×107.0	当館蔵
10 山下摩起	鷺	1961(昭和 36 年)	紙本墨画	60.0×80.0	当館蔵
11 菖蒲大悦	初夏の池畔(修法ヶ原)	制作年不詳	紙本著色	70.3×79.8	神戸市蔵
12 古家 新	日の出	制作年不詳	油彩・キャンバス	32.1×41.0	当館蔵
13 福田眉仙	蓬莱峽	制作年不詳	紙本墨画	55.0×61.2	当館蔵
14 前田吉彦	勤学夜景図-熊沢蕃山、 中江藤樹に入門を請う図-	1884(明治 17 年)	油彩・キャンバス	51.0×65.0	当館蔵
15 西村元三朗	段をのぼる人	1951(昭和 26 年)	油彩・キャンバス	91.0×116.7	当館蔵
16 西田真人	虚ろな窓	1995(平成 7 年)	紙本著色	80.3×116.7	当館蔵



1



7



8



9



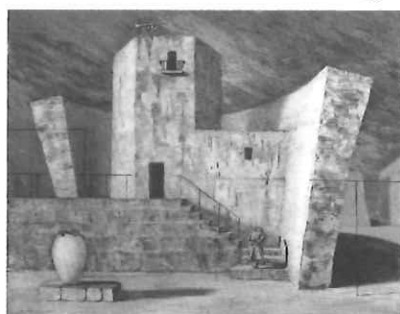
10



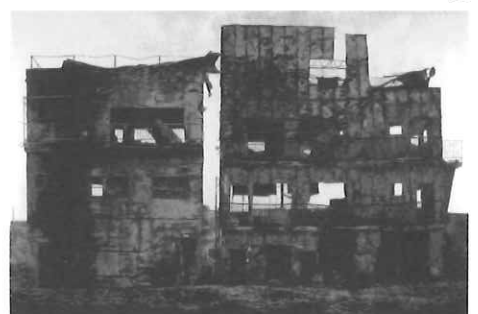
11



14



15



16